

## 目指す生徒像

### 「建築法規」の知識・技能を身に付け活用できる生徒

- 法的根拠から建築物を検証し、適合・不適合を判断できる
- 検証結果をもとに法に適合させるための改善策を検討し、提案できる



### JUMP 習得した知識・技能の活用

- 学力差のある生徒が協力して課題を解決する
- 法的根拠を説明し、問題の改善を図る

### STEP 知識・技能の習得

- 建築基準法の条文をワークシートにまとめ理解する
- グループ学習で知識・技能の定着を図る

## 生徒の実態

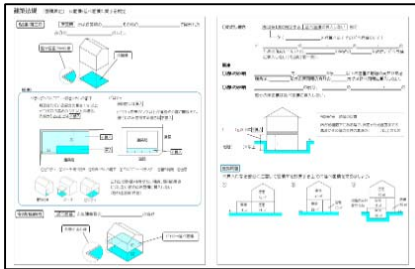
自力での解決に大きな差  
発言や質問をする生徒の偏り

- 条文の読み取りや数値算定への苦手意識がある
- 問題点を発見し改善するための知識が十分でない

## 実践1 STEP

### ① 条文を正確に理解する活動

- 原則規定と例外規定の分類
- ワークシートの活用



ワークシート

### ② 学習内容を定着させる活動

- グループでの学び合い
- 学習結果の共有



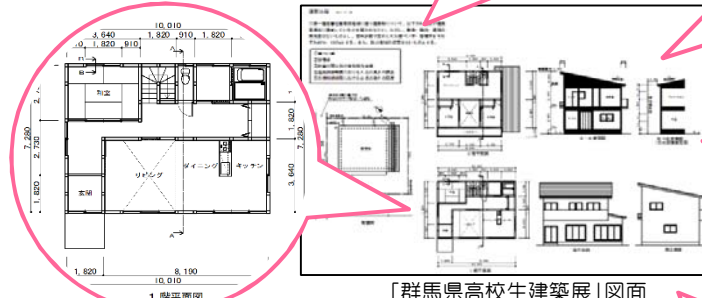
グループ学習の様子

## 実践2 JUMP

### ① 学びを伸ばす課題

- 生徒の理解度に応じた課題
- 生徒が興味を持てる課題

建築基準法に適合しているか確かめなさい。



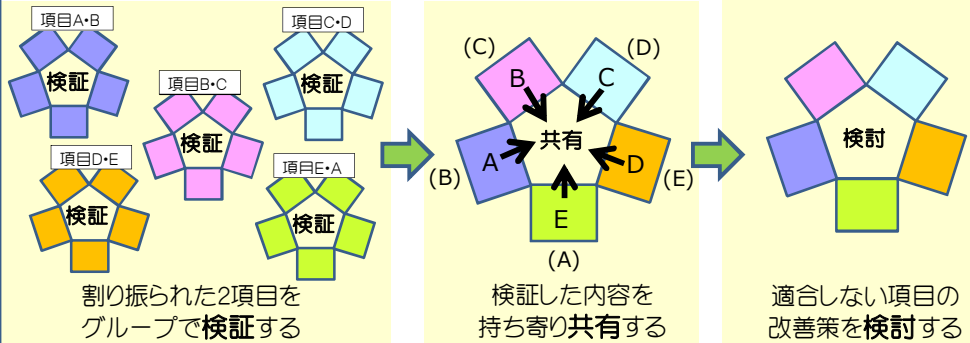
「群馬県高校生建築展」図面

### ② 全員が参加し思考する学習形態

- グループでの検証
- 検証結果の共有と改善策の検討

法的根拠から検証する項目

- A: 建ぺい率 B: 容積率 C: 居室の採光
- D: 道路斜線制限 E: 北側斜線制限



## 成果

- 実践1に繰り返し取り組み、建築基準法の基本的な知識・技能を身に付けることができた。
- 実践2では身に付けた知識・技能を活用し、建築基準法を根拠に建築物を検証することができた。
- 理解が十分でない生徒も、同じ項目を検証した生徒からの支援により検証内容を説明することができた。



## 課題

- 検証後に気付いた点や注意点を全体で共有したが意図とずれた内容になってしまったため、ポイントをおさえた明確な指示が必要である。
- 生徒が全体発表に慣れていないため戸惑う場面があったので、より充実した事前指導と発表形態の工夫が必要である。